

新健康協会では、新しい健康法を伝える「健康新聞」を毎月発行し、人間の持つ治癒力や適応力をお伝えしています。肉体的、精神的なことでお悩みの方もぜひ御一読ください。

健康新聞

発行所
発行人

新健康協会

〒813-0001

福岡市東区唐原 6-7-1

TEL:092-661-1531

https://shinkenko.jp



次の御論文は、明主様（当協会の教祖）が、昭和二十四年に発表されたものであります。世界平和と心身共に健全な人間作りを目指す活動に御理解を頂ければ幸甚です。

幸福の秘訣

幸福の秘訣などというと、何か特別の魔法でも使うように思いかも知れないが、決してそうではない。至極あたり前の話である。ただそのあたり前の事を、世人はあまりに気がつかないのである。今社会全般を見渡した時、真の幸福者は一体幾人あるであろうか、おそらく一人もないといつてよからう。事程さように苦悩の世界である。実に如何なる人といえども失敗、失業、病苦、貧困、不和、懷疑、悲観等、実に首枷、足枷をはめられ、牢獄に呻吟しているというのがありのままの姿であろう。

まず誰しも平静になつて考える時、こういう疑問が起こるであろう。全体造物主である神様は、人間を造つておきながら、これ程苦しめるといふ事はどういう訳であろうか。なぜもっと不幸よりも幸福の多い世界にしてくれないのであろうかと思わない訳にはゆくまい。と考えると、何かそこに割り切れないものがあるに違いない。従つてその割り切れない点を誰しも知りたいであらうから、それを説明してみよう。

人間の発生した原始時代から今日ただ今まで厳然として存在を続けているものとしては、まず善と悪とであらう。これは真理である。そうして、この善悪という相反する性質のものは常に摩擦し争闘しつつ、今もつて勝負がつかないでいる。と

ころがよく考えると、この善悪の摩擦によつて今日のごとき文化の発展をみたのであるという事も、また真理である。この事について私はよく質ねられた事がある。それは神様は愛であり慈悲であるとしたら、最後の審判などといって人間に悪い行いをさせ、罪を作らせておきながら、それを罰するというのはどうも訳が分からない。最初から悪人を作らなければ、罰も審判の必要もないではないかというのであるが、これはもつとも千万な話で、実をいうと私もそう思っている。しかしながら、私が人間を造つたとすればその説明は容易だが、私といえども造られた存在である以上徹底した説明は出来ようはずがない。強いて説明をすれば、神の御心はこうであらうと想像する以外、説明のしようはないであらう。とすれば、そんな穿鑿は有閑人に任せて、我々としては現実を主とし生ある間幸福者たり得ればそれでいいのである。故に、何よりも右の根源を発見し実行する事である。ではその方法とはいえば、常に我々のいう他人を幸福にする事で、ただこの一事だけである。ところが、それには最もいい方法がある。その方法を私は長い間実行していて、素晴らしい好結果を挙げていたので、それを教えたいためにこの文を書いたのである。

右をまず簡単にいえば、出来るだけ善事を行うのである。始終間さえあれば何か善い事をしようとか心がけるのである。例えば人を喜ばせよう、世の中のためになら妻は夫を気持ちよく働かせるようにし、夫は妻を親切にし安心させ喜ばせるようにする。親は子を愛するのは当然だが、叡智を働かせて子供の将来を思い封建的でなく、子供は親に快く心服し、愉快に勉強させるようにする。その他日常すべての場合相手に希望をもたせるようにし、上役に対しても下役に対しても愛と親切とを旨とし、出来る限り誠をつくすのである。政治家は自分の事を棚上げにして国民の幸福を第一とし、すべて模範を示すようにする。勿論一般人も一生懸命善事を行う事につとめ、知恵を揮い努力

するのである。このように善事を多くした人程幸福者になる事は請け合いである。

以上のように、みんなが気を揃えて善事を行ったとしたら、国家も社会もどうなるであらうかを想像してみるがいい。まず世界一の理想国家となり、世界中から尊敬を受けるのは勿論である。その結果あらゆる忌まわしい問題は解消し、我等が唱える病貧争絶無の地上天国は出現し、人民の幸福は計り知れないものがある事は、大地を打つ槌ははずれても、これは決してはずれっこはない。

ところがだ、現在としての現実はどうであらうか。およそ右と反対で、悪事を一生懸命しようとする人間が滔々たる有様で、嘘をつき人を誤魔化し、己のみうまい事をしようとして日もこれ足らずの有様である。実に悪人の社会といつても過言ではない。これでは幸福などは千里の先へ行きつきりで帰るはずはない。その上困った事には、こういう地獄世界を当然な社会状態と決めてしまつて、改革等は夢にも思わないのである。しかも、我々がこういう地獄世界を天国化すべく活動するのを妨害する奴さえある。これこそ自分から好んで不幸者となり、最低地獄へ落ちるようなものである。こういう人間を我等からみる時、最も憐れむべき愚人以外の何物でもないと共に、我等はこれらの人間の救われん事を常に神に祈願しているのである。

あまり長くなるからここで筆をおくが、以上の意味をよく玩味すれば、幸福者たる事はあえて難事ではない事を知るであらう。

浄霊体験記

2ページ
3ページ

- 浄霊を知らなかったら今の自分はいない！
- 毒素の排せつでますます健康に
- 苦しみから救われ幸せあふれる生活へ！

浄霊によって病苦から救われると共に運命が向上し、幸せになられた方々の体験手記でございます。

強い薬ほど副作用がきつい…

浄霊を知らなかったら
今の自分はいない…

岡山支部

はなさかともかみ
花坂知史 (51)



私が浄霊を受けるようになったのは私自身がきっかけでした。

これは母に聞いた話ですが、昭和五十年、私が生後六カ月の時、風邪を引いたため、病院に連れて行っただけです。治療は解熱剤と吸入と、甘くした飲み薬だったようで、毎月十日間くらいは病院に通っていたようです。しかし、なかなか思うように改善しなかったため、一年二カ月の間、この状態が続いたとのことでした。それでも元気にならなかったため、心配した母は、国立病院に行き、診察を受けたそうです。この時が昭和五十一年の十月で、私は一歳八カ月になっていました。診察後、医師から

「内斜視と弱視の状態です…」との診断を受け、さらに「内斜視と弱視は高熱の時に使った薬の副作用です。強い薬ほど副作用がきついということくらいは知っておかなければ…」と言われたそうです。母はそれまで、医学を信じて子どもを任せていたのに…という思いが強くなり、とても残念な気持ちになると共に、医療というものを信じられなくなったそうです。目の前が真っ暗になり、これから子どもをどうしたら良いのか…と途方に暮れてしまったとのことでした。

この方法しかない…

ちょうどこの時、母の実父の法要があったため、母の姉夫婦が福岡県北九州市の小倉から、私達が住んでいた岡山県まで来ました。

母のお姉さんは以前から頭痛持ちだったそうですが、この時はまったく薬を飲んでいなかったため、母はどうして薬を飲んでいないのだろうか…と思ひ、姉婿さんにその理由を尋ねると「妻は近頃、新健康協会の浄霊を受けており、薬は飲まんよ」と聞いたそうです。母は私を救うにはこの方法しかない…と思ひ、薬にもすがらないでしたが、当時は岡山県に支部がなかったため、お姉さんの住む小倉にある支部を訪ねました。

小倉支部では、当時の責任者の方から「薬毒のこと」や「浄霊のこと」を聞いたそうです。母は薬を使わずに私の病気が治るのなら有難い…と嬉しくなったそうです。また、支部の先生から「何かあれば電話してください…」と言われたことで不安の中にも安心を得ることが出来たそうです。

その後、母は家でも私の浄霊が出来るように…と思ひ、昭和五十二年の四月十二日に小倉支部で入会しました。母は支部から遠く離れていても私の浄霊が出来るので、有り難さで一杯だったそうです。おかげ様で支部の先生からもいろんなお話を聞くことが出来、私が熱を出したり、ゼンソクの症状が出たりしても心配にならず、安心して浄霊が出来たそうです。

こうして毎日浄霊を受けたことで、私が小学校に入学する頃にはゼンソクの症状もほとんど出なくなりまし。そして内斜視も良くなり、弱視と言われていた視力も回復しました。私は小学生になれば自分も浄霊が出来るようになる…と聞いたので嬉しくなり、小学一年生で、すぐに入会しました。

おかげ様でその後も元気に過ごすことが出来、高校も卒業して就職することも出来ました。

会社勤めをしていた時も素晴らしいおかげを頂きましたのでお伝えいたします。

大きな事故でも奇跡の無傷…

平成十七年四月十一日、私が三十歳の時のことです。私は通勤中に職場前の交差点で大型トラックと接触事故を起こしてしまいました。私も一瞬のことで状況が分からなかったのですが、相当の衝撃を受けました。職場前での事故ということもあり、同僚が駆けつけてきてくれました。その後、救急車で病院に搬送されました。

病院ではMRI検査、肩、胸部のレントゲン検査を受けましたが、全く異常がなく、即日退院となりました。私

は、とても驚くと共に「守って頂いたんだ…」という感謝が湧きました。

翌日、会社に検査の結果を報告した後、自分に乗っていた車の状態を見に行きました。すると車軸が曲がっているとのこと、修理をするよりも新車を買う方が安く済むと言われました。これほどの事故に遭っていないが、こうして命があることに改めて「奇跡を頂けた…本当に感謝しかない…」と思いました。

私は今年で五十一歳になりましたが、有難く幸せな日々を送っています。もし浄霊を知らなかったら、今の自分はいないと思います。

こうして救われてきたことに感謝すると共に、一人でも多くの方にこの浄霊を伝えていかなければならない…と日々努力しています。

明主様に心より感謝申し上げます。

(岡山県岡山市)

浄 霊

浄霊は、大自然のエネルギーであり、病気やあらゆる問題で苦しんでいる人、悩んでいる人を救う方法です。

浄霊によって魂は清浄化され、肉体が健康になっていきます。

まずは試されてみてはいかがでしょうか。

浄化作用

人間には体内の毒素(=不純物)を排除して健康を促進しようとする働きがあります。例えばカゼの場合、体内にあってはならない毒素を溶かすために熱が出ます。溶けた毒素が鼻水やタンとなって排出されるので体の中が掃除され、清浄化されます。

その毒素排除の過程を「浄化作用」と言います。浄化作用は、熱や痛みを伴うので苦しみがありますが、体を健康にする大切な清掃作用でもあるのです。



不整脈

毒素の排せつで
ますます健康に

南福岡支部

あだちあきら
足立章 (74)

私は昭和六十二年四月、三十四歳の時の健康診断で「心臓に不整脈がみられるので、精密検査を受けるように」と言われました。その後、何度か検査をしました原因は分からず、薬を飲むことと医師から「心臓の負担を軽くするためにも体重を減らしなさい」と言われました。

五月に入って急に左胸にコリを感じ、体がだるくなつて一週間会社を休むことになりました。その後、何とか仕事に復帰出来ましたが、心臓病に効く薬はないと聞いたことがあり、何かあるたびに悪い方に考えが行き、気持ちが暗くなるばかりでした。そんな中、再度同じ症状で会社を休むことになり、ますます絶望的になりました。

私が当時勤めていた会社には、新健康協会の会員の方がおられて、時々その方から薬の害や病気についての話を聞くことがありました。最初に心臓が悪くなった時も、新健康協会のことや

浄霊の話を聞いていましたが、その時は心が動きませんでした。

しかし、二回目に誘って頂いた時は浄霊を受けてみたい気持ちになり、五月に新健康協会の南福岡支部へ連れて行ってもらいました。支部では「病気とは浄化作用であり、体から悪いものを出す作用です」という今までの考えとはまったく反対の話を聞きました。しかし、その内容は理屈に合った自然な考え方でもあり、暗くなっていた私の気持ちに光が射してきた思いがしました。

この思いから浄霊を受けるようになり、その後も浄霊を続けました。そして、昭和六十二年十一月二十九日に入会しました。

おかげ様で、浄霊を受けることで体が軽くなりました。左胸のコリも少しずつ取れ、ふらつきや動悸も楽になり、日を追う毎に元気になっていきました。こうして不安のない生活を送ることが出来るようになり、現在では何の支障もありません。

無事に結婚式も出来た：

結婚式を前にした平成二年、私が三十七歳の時、初夏の頃より頭全体から膿が出る症状が起きました。眉を寄せるとヘルメットを被っているような感じでした。この症状が出る前から頭がフラフラして、何かに掴まっていけないと三十秒も立っていることが出来ず、イスに座っていても何か考えていないと意識を失いそうな状態でした。

浄霊を受けながら半年程は症状が続きましたが、その症状がなくなるとふらつきもなくなりました。おかげ様で予定していた結婚式も行うことが出

来、式の間しっかりと立つことも出来ました。その様子を見ていた妻も平成三年六月に入会しました。

その後、平成五年の夏、私が四十歳になった時、虫刺されから左足首、両耳、両腕、両太ももと広くシツシンが出来、膿が出てきました。十二月頃から、かゆみと痛みが特にひどくなり、夜も寝られない日が二ヵ月程続きました。

それでもその症状に向き合えたのは、浄霊を受けていたことと、浄化作

ネパール

腰痛

苦しみから救われ
幸せあふれる生活へ：

ナランガー支部

サニマヤ・ラナ (46)



二〇〇七年、私が二十七歳の時、腰痛でとても苦しんでいました。この時、私は八歳の娘と一歳の息子の二人の子供と夫と一緒にインドに住んでいました。腰痛が酷かったため、子供たちに食事を作って食べさせることも大

用で体内の悪いものが出たら健康になれる：ということを知っていたからでした。

私も妻も薬を使用することなく、浄霊だけで以前よりも丈夫で健康な体になったと実感しております。

これからも多くの方に浄霊の素晴らしさを伝えていきたいと思っています。

明主様、誠に有難うございます。心より感謝申し上げます。

(福岡県福岡市)

変になりました。夫は仕事で忙しいのに、私は腰痛で家事をすることも出来ない：そんな状態が続いたので悲しくなり、泣きながら生活していました。

私は病院に行く時間もなかった上に、病院に行くとも費用も大変なので、自分でマッサージをしていました。また、体が冷えるから、この腰痛が起きていると思う、太陽の下に横たわるようにしていました。私はこの生活を二年間続けてみましたが、一向に良くなりませんでした。

日に日に楽になっていった：

二〇〇九年五月、私の状態も良くならないので、カトマンズの西部に位置するナランガーにある実家へ家族と一緒に帰ることにしました。そして、ナランガーに戻って親戚に会った時、義理のお姉さんに、この二年間、私が苦しんでいた腰痛の話をしました。すると、お姉さんは新健康協会の会員で、私に「一度浄霊を試してみたらいい」と話してくれました。また、浄霊についても詳しく説明してくれました。

その話を聞いた翌日、私はナランガー支部へ行きました。支部には浄霊を受けに来られている方が多くいましたが、手をかざして浄霊をされている姿を見て、私は「これで良くなるのだろうか」と、全く信じる事が出来ませんでした。そう思いながら浄霊を受けてみると、やはり特に感じるものはありませんでした。

私は疑いをもったままだったので、支部におられた方々に話をしてみますと、一人の方から「私は浄霊を受けて元気になった。あなたも、まずは一週間試してみたらいい」と言われたので、その後も浄霊を続けることにしました。

すると一週間後、驚いたことに、体が軽くなっている：と感じました。私は嬉しくなり、その後も毎日浄霊を続けると、日に日に楽になっていくことを感じるようになりました。

一ヵ月間、毎日浄霊を受けました。あれほど辛かった腰痛は、五十パーセントほど楽になりました。その後も段々と楽になっていき、最終的には腰の痛みがどこにあったのかを忘れるほどになりました。家族も、私が健康になっていく姿を見て、浄霊はすごい：と感激し、家族も浄霊を受けるようになりました。

おかげ様で料理も家事もすべて出来るようになりました。その喜びは言葉に出来ないほどで、大きな苦しみから救ってくださった明主様に心から感謝いたしました。そして、信仰と信頼が高まり、自分と同じように苦しんでいる人に浄霊を伝えていきたいと思い、二〇一三年二月二十二日、私は三十三歳で入会しました。その後、夫も娘も会員となり、幸せな家庭を築けています。

(ネパール・ナランガー)

自然農法

自然農法体験談



荒尾支部
しば およしひろ
柴尾善博(78)

私が自然農法を知ったのは、昭和五十七年九月、私が三十三歳の時です。当時、妻の体の状態が良くなかったので新健康協会の支部に行きました。すると、支部の玄関に稲穂が飾ってあったので不思議に思い尋ねますと、無肥料・無農薬の自然農法を実行されている方がいると聞きました。

私の家は代々農家なのですが、私が十代の頃、農薬散布をして農薬障害になったことがありました。私は人体に影響を及ぼす農薬を使うことや、その農作物を食すことが間違っているのではないかと、農家を継いだ時から化学肥料や農薬についての研究をしていました。

そんな時、自然農法のことを聞いた私は、化学肥料や農薬が人体に影響を与えること、大自らの恩恵である太陽、水、土に感謝し農作物を育てることが、尊い人間の生命を支えることになる…ということを知り、今まで疑問だったことが解決しました。私は「自然農法しかない！」と思い、すぐに自然農法を実行しました。

◇ 自然農法を始めてすぐは草取りが大変でした。今までに入っていた化学肥料や農薬が肥毒

自然農法とは自然を尊び、愛情をかけて育てることで、自然力を生かす農法です。

として蓄積されていることもあり、虫や病気で収穫が上がらないこともありましたが、それでも私は「不純物のない、生命力溢れた生きたお米を作りたい！」と思い、さらに土の清浄化、種の清浄化に努めました。

その中で、化学物質過敏症の人も、そうでない人も安心して食べられるお米はあるのか…しかも九州地方で栽培可能な品種はあるのか…という模索が始まりました。

そこでまず注目したのは、かつての人気を博しながら、今は「幻の米」となった「農林四十八号」という品種でした。この米は雑草に強く、除草剤や化学肥料を使わなくても栽培が可能であり、標高四百メートルくらいが栽培に最適と知り、阿蘇にある私の田んぼで自然農法が出来る！と思いました。

最初は実験的に一反ほど作ってみたところ、思ったよりも良く出来ましたので、少しずつ耕作面積を増やしました。すると年々収量も増えていきました。

現在はお米の他、小麦、そば、野菜等を育てています。これからの食の安全、そして未来に至るまでの繁栄、大きくは国の将来を思う時、この自然の法則に適った自然農法が一般的で当たり前の農業として認められ、定着しなければならぬと考えます。その実行のため、現在様々な取り組みを行い、努力をしています。

私はこれからも自然農法を実行していき、多くの方が元気で幸せになるよう努めていきます。
(熊本県玉名市)

美の世界

美によって人間の情操を高め、生活を豊かにし、人生を楽しく意義あるものにすることができます。

《ポロチーム》(中国・唐代)

中国には、死者を埋葬するとき、生前使用していたものの、人物、動物などを象った器具をつくり、一緒にお墓に納める習慣が古代からあります。これらを明器といい、とくに人物については「俑」と呼ばれました。約八千体もの兵士の俑が発掘されている秦始皇帝陵の兵馬俑がもともとも良く知られた例でしょう。今回紹介するのは、唐代初期につくられたと推察される陶製の俑です。

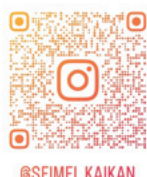
四組の馬に乗る人物たちは、そのポーズからポロのプレイヤーだと考えられています。それほど大きくないサイズですが、後ろ足に重心をかけ、首をひねり、いなくような口元をした馬の姿が驚くほど写實的に形づくられており、袖をたなびかせ、上体をかがめた姿勢で騎乗するプレイヤーとともに、競技中の緊張感みなぎる一瞬が生生きと捉えられています。

もともとポロは大変古い歴史のあるスポーツで、その起源は紀元前六百年頃のペルシアにまでさかのぼります。のちに馬に乗ってマレットでボールを打つゲームになり、広く伝播して中国にも伝わりました。唐時代には「擊鞠」「擊毬」「打球」「馬球」などと呼ばれ、高貴な人々が楽しんだようですが、あまりに熱中したために有害だとすら思われていた節があります。ポロを描いた彫刻や絵画がそれほど多くないのはそのせいかもしれません。それでも馬を乗りこなす馬術を磨く必要のあるこのスポーツは、優秀な馬を得たり、馬具を進化させたりすることと相まって、軍

事的にも意味のあることと認識され盛んになりました。ポロに関する詩も残っていて、女性が競技することもあったようです。

陶俑は基本的に型を使ってつくられますが、豊かな人物の副葬品となるものは、一流の職人によって手作業が行われていたようです。この像も、それぞれ違うポーズで表情も異なっており、プレイヤーの頭巾や靴、馬の体にも彩色されていることが見て取れます。もともと死後の世界でも不自由のないように、という祈りの気持ちから埋葬されていた陶俑ですから、きっとこの作品の主人もポロに熱中していた貴人だったのでしょう。いろんな角度から持ち主の人生が偲べられます。

解説 松田愛子



晴明会館(美術館)
のInstagram
ははじめました。

晴明会館

「祈りをこめて」前期展

期間…令和8年6月9日(火)～12月5日(土)

※晴明会館お問い合わせ ☎(092)661-1535